檸檬

建築・都市アメニティグループ
B10C018　北山絵梨奈

歴史的建築物　出会いの場　創作活動
アーティスト　黒石こみせ　専門学校

1. はじめに

青森県黒石市は青森市と弘前市の間に位置し、人口は36822人である。弘前藩から分地された黒石津軽家の城下町として発展した都市だが、近年中心市街地では生活様式の変化についていけなかった商店街が増加し、中心市街地の空洞化が進行している。中町地区とその周辺には藩政時代につくられたこみせ(1)が残されている。市は1998年に中心市街地活性化基礎計画を策定し、事業展開の方針を、こみせの保全、再生により中心市街地の軸を形成すると共に活性化拠点を整備して区域全体に効果を波及させることとした。2005年には重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。

しかしこみせを核としたまちづくりは中心市街地空洞化の一要因である生活様式の変化についていけなかった商店街を根本的に救うことはできなかった。こみせ自体にもそれほどの求心力があるとはいえない現状である。商店街の人々に新しい視点を与えるにはこれからの現代社会を担う若者の感性を通すことが有効であると考える。そこで、若者を主体とした商業機能、アーティストのためのアトリエ機能を備えたアート中心の専門学校を提案することとした。観光客に対して、こみせ通りは文化的価値のある昔の街並の体験として提供する一方で、本施設はアーティストや専門学校生の作業風景を公開、展示、販売することにより活気のある空気感、未来の街並の体験を提供する新しい観光地である。

2. 施設機能と敷地概要

2-1. 施設機能に対する考え方

前期研修では都市的文脈を考慮していない建物群が高度経済成長期以降増加していることに問題意識を持った。そこで、ヴァナキュラーな共同体建築を都市的文脈を最も考慮した建築群として着目し、チステルニーノ(2)の外部空間におけるコミュニケーションの発生状況の考察を行った。結果、場所でみるとトンネル入り口付近、袋小路でコミュニケーションが発生、季節で見ると冬以外、特に夏場の昼にパラソルなどの野外の日陰空間で発生していた。

よって、都市的文脈を備えている黒石市こみせ通り付近においてもこの結果を反映させた計画を提案する。

2-2. 設計対象敷地及びその周辺

敷地は、黒石市中町／横町にまたがる敷地で、現在は月極駐車場として利用されている。呑み屋街、商店街、こみせ通りに挟まれており、各通りから路地でアプローチできる。観光客の主な流れとしてこみせ通りからかぐじ広場(3)に移動できるが、隣接しているかぐじ広場からは殺風景な敷地が見え、広場自体もイベント時以外有効活用されておらず、訪れる人はまばらである。

図1　敷地周辺

写真1　対象敷地

写真2　かぐじ広場(西面)

写真3　かぐじ広場(北面)

3. コンセプト

商店街の人々に若者の作業風景や作品を自然な形で見せることで、商店街の人々に新しい視点を与えると共に、若者もこみせ通りという歴史的価値のあるものに常に触れることで、アイディアのソースとなることを期待する。よってデザインコンセプトはアトリエや専門学校用スペースを交差、突出させ、立体路地のような賑わいを感じさせるデザインとした。また街並保全の一環として伝統的建造物を疑似化した建物を建設するという手法がとられる場合があるが、歴史的建造物に近年の新しい建築材料や技術によって得られた形態を持ち込むことは、都市を更新する上で重要であると考えたため、1階はこみせ通りの空間構成を継承して切妻屋根とし連続性を確保するが、2階や3階は陸屋根とし切妻屋根の棟に貫通、挿入することで新しい形態とが絡み合い融合していることをイメージした。

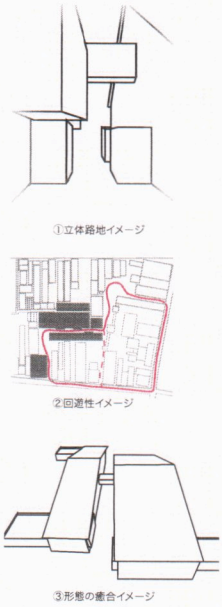


図2　コンセプト図

4. 最終設計案

施設全体はアトリエ、専門学校用スペース、多目的スペース、販売スペース、カフェの5つで構成した。

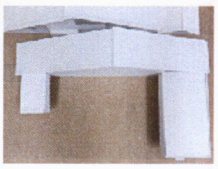


写真4　外観その1

写真5　外観その2

写真6　内観

①アトリエ

アトリエではアーティストの人々の工房を配置した。アトリエ内には、1階部分のスペースを利用して様々な種類のアートを行うためのこみせの空間構成を継承した土間空間と、騒音が発生する電気機器を使用するための部屋を外壁に接するように配置した。土間を上がった小上がりはパーテーションでしきり、そのアーティストがその時々で使いやすいようにアレンジできるようデザインした。

②専門学校用スペース

専門学校用スペースではグラフィックデザイン、絵画、彫刻、写真／映像の4コースを設けた。彫刻、グラフィックデザインコースがアーティストのためのアトリエと、絵画、写真／映像コースが専門学校機能としての事務室等の諸室と繋がっている。各コースは繋がっている建物と一部が吹き抜けになっており、階として独立しているが建物全体として一体感を感じながら作業を行えるようにした。

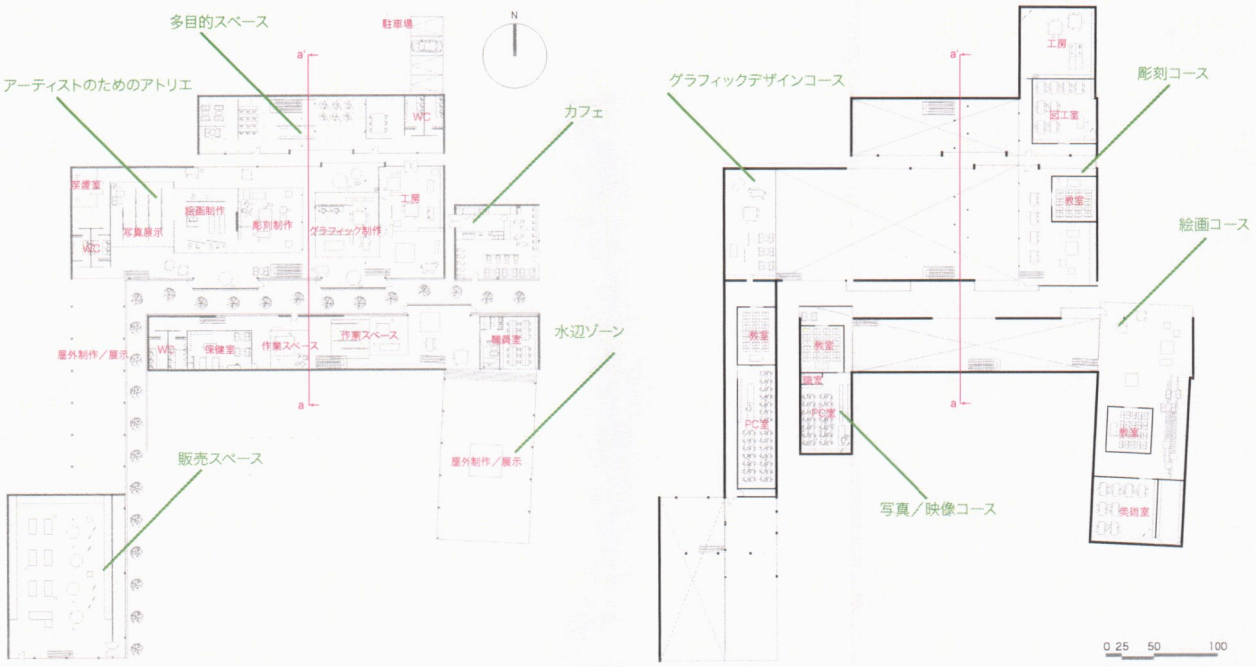


図3　1階平面図、2階平面図

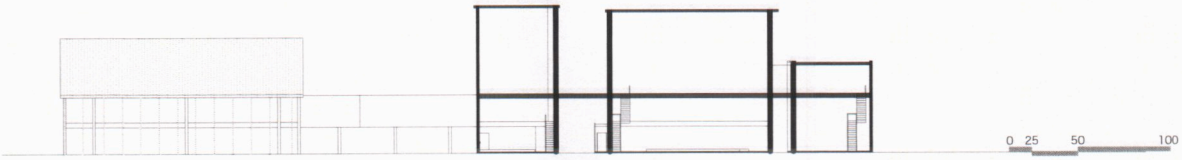


図4　a-a′断面図

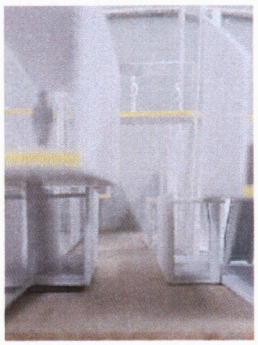


写真7　メインストリート

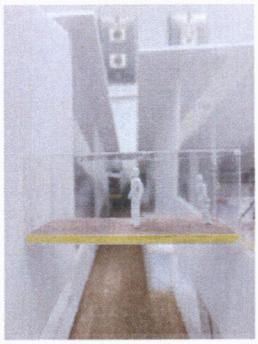


写真8　渡り廊下

写真9　土間から見た
写真／映像コース

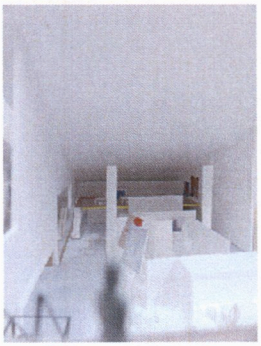


写真10　アトリエ内観

写真11　グラフィックデザインコース

写真12　彫刻コース

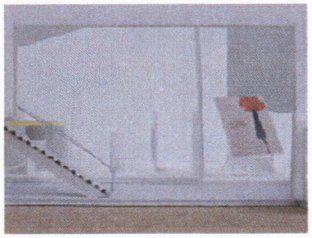


写真13　メインストリートから見た
アトリエ

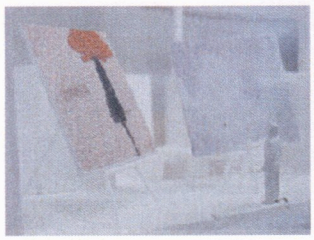


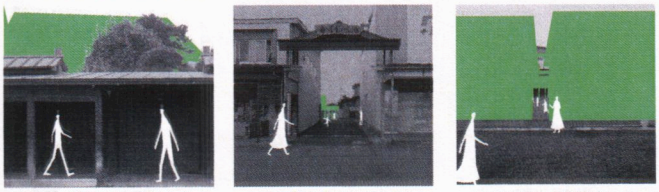
写真14　アトリエ作業風景

③多目的スペース

多目的スペースでは高校生や住人が自由に出入りするスペースを配置した。比較的閉鎖的なプライベート性の高い空間とし、パソコンやテーブルを設け、小さな情報収集の場や、高校生の勉強の場、イベントを行う場として利用できるようデザインした。また 2 階部分で専門学校生のための教室と繋げることで利便性を高めると共に、生徒の休憩所ともなりうる。

5. まとめ

本計画では青森県黒石市の中心市街地空洞化への対策として、若者の感性を黒石市こみせ通りに隣接する場所に都市的文脈を継承しながら取り込む施設を提案した。この施設は付け合わせの檸檬が素材を引き立てるように、今までとは異なる新たな黒石市の魅力の発見をもたらすだろう。今後はこみせ通り内の空き地や空き家の有効活用について提案することが課題である。



①こみせ通りから見た施設イメージ　②商店街から見た施設イメージ　③かぐじ広場から見た施設イメージ

図5　周辺環境イメージ図

【補注】
(1) 青森県下や秋田県下などの町家において、表通りの正面に設けられた深い庇を指す呼称。積雪時などの人の通行の用に供する。
(2) アドリア海から海抜 350m 程の丘陵地上にある人口 10000 人程の小都市。城壁の中には白く塗られた住居群が迷路状の道により高密に組織されており、町の構造は 15 世紀に完成したとされている。
(3) 間口が狭く奥行きが深い商家のバックヤード。こみせのある一帯に数多く残されており、その一部は「かぐじ広場」として公共空間になっている。

秋田県立大学システム科学技術学部
建築環境システム学科　建築・都市アメニティグループ
Urban and Architectural Planning Lab. Dept. of Architecture and Environment Systems
Faculty of Systems Science and Technology, Akita Pref. Univ.